岡田ちほのメーカー探訪
サミー株式会社

遊技機メーカーの歴史や現在の取り組みなどを取材する新企画がスタート。記念すべき初回の企業は11月1日に設立50周年を迎えたサミー株式会社だ。業界を代表する存在へと成長した同社のこれまでの歩みを辿りながら、将来へ向けたビジョンについて話をうかがう。

KIBUN PACHI-PACHI委員会 Vol.32

気分がパチパチあがるような、明るく楽しい体験をもたらしてくれる――そんなパチンコ・パチスロのエンターテインメント性を広めるため、パチンコメーカーで構成される日本遊技機工業組合が発足した。

合言葉は「新しいものはサミーから」

元は豆腐会社の一部門だった？

受付ロビーから廊下の壁面に至るまで、社内は設立50周年を祝う装飾がズラリ。インタビュアーという大役を任され緊張しているはずのパチンコライター・岡田ちほ、笑顔でエイリやんと自撮りをしているが、本当に大丈夫だろうか？　程なくして星野社長が到着、インタビューが始まった。

岡田ちほ（以降：岡田） はじめに、サミーの原点は「豆腐屋」だったというのは本当ですか？

星野社長（以降：星野氏） 弊社創業者・里見治が、父の営んでいた豆腐製造販売会社「東京栄養食品株式会社」の社名を「株式会社さとみ」に変更し、新たにアミューズメント事業部を立ち上げました。同事業部においてゲーム機の開発を手掛けたことが、遊技機事業参入のきっかけとなりました。ある意味、「本当」ですね。

岡田 後に同じく豆腐屋が舞台となる「頭文字D」の遊技機を手掛けていますが、関連性は……？

星野氏 ……ございません。

アイドリングトークが不発に終わってしまった岡田。場が妙な空気に包まれたため、急いでハンドルを握り直す。

岡田 社長が入社した1995年、当時のサミーはどのような状況でしたか？

星野氏 入社の前年に、業績悪化に伴い組織再編が行われたタイミングでした。社員数は150人弱になっていましたが、社内はとても前向きな雰囲気でした。

サミー株式会社
代表取締役 社長執行役員COO
星野 歩氏

岡田 その後、業界初の機能を搭載した機種を次々と販売し、特にパチスロで大きく躍進しましたね。

星野氏 当時は演出のサブ基板化が認められ、社是にある「積極進取」を体現したところ連続してヒット作に恵まれました。

岡田 そして2001年、パチスロ「獣王」の登場で業界シェアをさらに獲得するに至るということですね。当時の社内の雰囲気はどうでしたか？

星野氏 ヒットを重ねたことで自信に満ちあふれていました。勢いのある時期でしたね。

初代「パチスロ 北斗の拳」がホールを席巻

岡田 さらに2003年、「パチスロ北斗の拳」が産声を上げます。

星野氏 前年に発売したパチンコ「CR北斗の拳S（V）」が市場の期待に届かなかったこともあり、その直後のパチスロ化には上層部から慎重な意見もありました。しかし、開発現場には「北斗の拳」の原作ファンが多く、コンテンツの持つ力を信じていたので、開発現場の熱量を込めたプレゼンの末、開発が実現しました。スペック面では当初、ボーナスの継続数が事前に決まっているパチスロ「獣王」に似た仕様でしたが、紆余曲折を経て、操作されたような面白さよりも、確率の面白さを重視した毎回抽選の継続率管理に変更しました。その結果、独自の「出玉性能×開発陣の原作愛」を詰め込んだ傑作が生まれ、約62万台という歴代最多の販売台数を記録するに至ります。

岡田 現在では、パチンコ・パチスロ共に「北斗の拳シリーズ」が定着し、強固なIPとなっています。現在は「東京リベンジャーズ」の遊技機を展開中ですが、アニメやゲーム等の有力IPを扱う利点とは何でしょう？

星野氏 「東京リベンジャーズ」は、アニメ化に際して製作委員会に名を連ねることで、比較的早く遊技機化を実現でき、話題を集めることができました。人気声優さんとの繋がりも生まれ、遊技機PRイベント等を共にすることで、業界の課題でもある新規ファンの流入にも貢献しています。漫画連載中の段階から注目し、優良版権を獲得した社員には大金星をあげたいですね。

岡田 遊技機事業の今後の展望を教えて下さい。

星野氏 サミーには中射幸帯の台が多いので、今後は低射幸、高射幸帯の機種を充実させたいです。特に低射幸帯、いわゆる遊びやすい台の充実は組合全体で取り組んでいる案件です。来年に向けて準備を進めていますので、楽しみにしていてください。

岡田 羽根物かな？　期待して待っています！次に新規事業について教えて下さい。

星野氏 遊技機事業に次ぐ新たなビジネスの軸として、世界的に流行しているテキサスホールデムポーカーをマインドエンタテインメントという新たなカルチャーとして普及させる、ポーカーブランド「m」を立ち上げました。現在はアプリゲームのほか、旗艦店としてオープンした「m HOLD, EM目黒（東京）と「m HOLD, EM中洲（福岡）の2店舗を展開しています。遊技機との親和性が高く、店舗のフランチャイズ化に興味を持って下さるホール様も多いです。将来的にはポーカーを入口として遊技機に興味を持つユーザーが増えることも期待しています。その他にも認知症予防を目的として開発した「福祉向けレクリエーション遊技機」や、その進化版である「デジタル遊技機」も全国展開を目指しています。将来的な遊技機の形として描いている「ダウンロード型遊技機」に繋がればいいと考えています。

岡田ちほさん

マインドエンタテインメントとして新たなカルチャーを創造する「m」

「m HOLD'EM目黒」

星野氏 サミーが50年間事業を継続することができたのは、ユーザー様やホール様をはじめとする、全てのステークホルダーの皆さまのご愛顧とご支援があってこそです。心より感謝申し上げます。これからも遊技機業界を盛り上げていけるよう、変化を恐れず新しい風を吹かせて参りますので、ご期待下さい。

岡田 ポーカーも嗜んでいる岡田としては将来が楽しみでなりません！　では最後に、50周年を迎えたサミーの今後の展望を教えて下さい。

注目の新機種情報

全国導入日 12/22～

e 新世紀エヴァンゲリオン ～はじまりの記憶～ （Bisty）

シリーズ20周年記念作品。ロングSTのゲーム性を継承しつつ、RUSH非突入でも、時短100回が付与される安心感あるスペックを採用している。演出面では公式外伝小説『エヴァンゲリオンANIMA』に登場する新機体「スーパーエヴァンゲリオン」「アルマロス」を初の映像化。新旧の演出を最先端技術で融合し、圧巻のボリュームで魅せる多彩な演出にも注目。また、専用筐体「超咆哮」には巨大初号機フェイス役物「クライマックスインパクト」を搭載し、かつてない没入体験を実現している。

©カラー／Project Eva.
©カラー／EVA製作委員会
©Bisty ©FIELDS

大当たり確率 約1/399.9

全国導入日 12/8～

e 北斗の拳11 暴凶星 （サミー）

"真の暴凶星"の名にふさわしく、北斗の世界観とLT3.0プラスを融合した設計が特徴。初当り・RUSHともに出玉性能は前作を大きく上回る。新要素の上乗せバトル「極闘EXTREME BATTLE」では6,000～12,000個の獲得に期待でき、LT3.0プラスの爆発力を最大限に発揮。北斗らしさと現行最上位クラスの出玉力を掛け合わせた"進化形"の一台となっている。

図柄揃い確率 約1/399.8

©武論尊・原哲夫／コアミックス 1983.
©COAMIX 2007 版権許諾証A05-71W ©Sammy

※導入日は一部地域によって、異なります。

パチンコ・パチスロホール&イチ推し店員、情報募集中

「オレの町の話題のホール」「イチ推し店員。この店のあの娘を推したい」、また、「うちのココが他店とは違う。自慢できるセールスポイントはこれ」「ぜひウチのアイドル店員を紹介したい」など、情報を募集中です。●問い合わせ＝弊社「KIBUN PACHI−PACHI委員会」gendai@nk-gendai.co.jp（右QRコード）まで。

次回掲載は12月23日（特別号）の予定です

過去の掲載はこちらで読めます
https://www.nikkoso.jp